



THAILAND ECONOMIC UPDATE

December 2020

ศูนย์วิจัยกสิกรไทย
KASIKORN RESEARCH CENTER

10月のタイ経済回復は前月よりも減速

▶ 要点

- ▶ 2020年10月のタイ経済回復は前月よりも減速しました。輸出の収縮幅が僅かに拡大しました。特に石油価格に連動する商品群、農産物、農産加工品など前年の輸出額が大きかった物品の収縮幅が拡大しました。民間消費は、ほぼ全てのカテゴリーで減少に転じました。また、外国人旅行者の入国制限により、経済をけん引する観光業は依然として打撃を受けています。
- ▶ 2020年11月の消費者物価の上昇率は、前年同月比0.41%縮小し、9ヶ月連続のマイナス伸びでした。下落率は9月の0.70%、10月の0.50%からさらに縮小しました。その主因として、11月には需要拡大や干ばつ、洪水の影響により野菜の価格が上昇したことが挙げられました。一方で、振れ幅の大きい生鮮食品とエネルギーを除くコア・インフレ率は同0.18%の小幅な上昇で、前月と比べ横ばいでした。
- ▶ カシコン・リサーチセンターは、2021年のタイ経済成長率を中央値で2.6%増とした最新の経済予測を公表しました。今年見通しの6.7%の収縮から回復しますが、回復ペースは緩やかなものとなると想定しています。更に、この予測幅は0~4.5%増という非常に幅の広い予測になっています。公共投資の伸びを6.1%増、政府消費の伸びを4%増と見ており、政府部門が引き続き経済成長を支える鍵となります。

▶ タイ経済の動向

2020年10月のタイ経済情報

タイ中央銀行が発表した2020年10月の重要な経済指標によると、タイ経済の伸びは前月から減速しました。金を除いた輸出額は前月を上回ったが、前年同月の反動を受けて下落率は拡大しました。民間消費に加え、公共支出も予算執行の遅れによりマイナスに転じました。また、外国人の入国制限により、経済をけん引する観光業は依然として打撃を受けています。

10月の民間消費は前年同月比1.1%縮小し、2カ月ぶりにマイナス成長となりました。ほぼ全てのカテゴリーで消費は減少に転じました。前月の特別連休による消費増の反動によるもので、耐久財消費は収縮に転じ、サービス消費は収縮幅が拡大しました。

一方で、民間投資は前年同月比4.9%縮小しました。

2020年10月のタイ経済指標成長率 (Y-O-Y: 前年比)



国内の機械販売が0.6%減となり、商用車の購入は5.0%減、機械・設備を中心とした資本財の輸入は15.6%減と下落率が拡大しました。建設認可を受けた土地の面積が1.0%減となり、建材の販売が0.5%減で前月から横ばいでした。

10月の輸出は、前年同月比5.6%減の193億米ドルとなりました。前月に比べて、収縮幅が僅かに拡大しました。特に石油価格に連動する商品群、農産物、農産加工品など前年の輸出額が大きかった物品の収縮幅が拡大しました。

工業生産に関しては、前年同月比0.5%減となり、前月の2.1%減から顕著に改善しました。設備稼働率は63.9%でした。

観光業では、外国人観光客数が前年同月比100.0%減となりました。タイ政府は10月、タイに最長270日間の滞在が可能となる特別観光査証を取得した外国人旅行者の受け入れを開始したが、入国者はわずかでした。

2020年11月のタイのインフレ率

商務省が発表した2020年11月のヘッドライン・インフレ率は、前年同月比0.41%縮小し、9ヶ月連続のマイナス伸びでした。下落率は9月の0.70%、10月の0.50%からさらに縮小しました。ヘッドライン・インフレの下落率が縮小した主因として、11月には需要拡大や干ばつ、洪水の影響により野菜の価格が上昇したことが挙げられました。また、政府が国民の生活必需品購入費の半額を補助する「コーペイメント」事業など消費刺激策を実施していることも影響しました。

品目別にみると、非食品・飲料部門が前年同月比1.64%低下しました。運輸・通信は、ガソリンの小売価格の下落により4.18%低下しました。一方で、食品・飲料部門は前年同月比1.70%増でした。ほぼ全ての品目が上昇しました。とりわけ、果物・野菜が7.74%増、肉・魚が3.85%増、調味料が2.46%増となりました。

一方で、振れ幅の大きい生鮮食品とエネルギーを除くコア・インフレ率は、前年同月比0.18%の小幅な上昇で、前月と比べ横ばいとなりました。

図1：民間消費及び民間投資（成長率：前年比）



図2：輸出、工業生産、外国人観光客数（成長率：前年比）

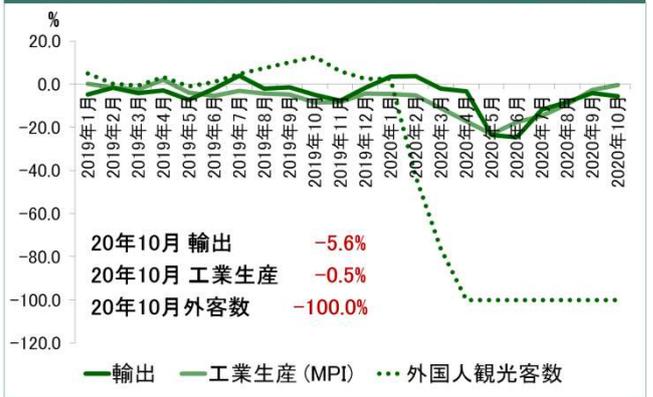


図3：ヘッドラインインフレ率及びコアインフレ率

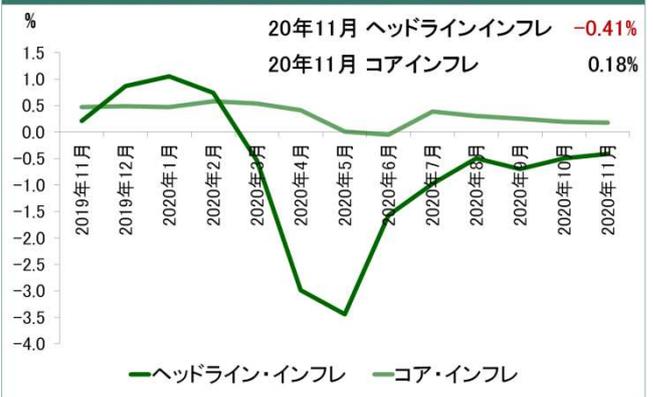


図4：食品・飲料と非食品・飲料の価格



出所：タイ国中央銀行、タイ国工業省、タイ国観光・スポーツ省、タイ国商務省

2021年のタイのGDP、2.6%成長と予測

カシコン・リサーチセンターは、2020年12月8日に2021年のタイ経済成長率を中央値で2.6%増とした最新の経済予測を公表しました。今年見通しの6.7%の収縮から回復しますが、回復ペースは緩やかなものとなると想定しています。更に、この予測幅は0～4.5%増という非常に幅の広い予測になっています。公共投資の伸びを6.1%増、政府消費の伸びを4%増と見ており、政府部門が引き続き経済成長を支える鍵となります。

タイ経済成長へ寄与度の大きい物品輸出は、船賃の上昇を考えると第1四半期に不確実性に直面すると見えています。欧米各国のコロナウィルス感染拡大に

よる貨物取り扱いの遅れでコンテナが滞留し、コンテナ不足が生じています。その余波でコンテナ運賃が11月から高騰を続けています。こうした情勢から景気回復が失速する可能性もあります。その場合は、タイ中央銀行が政策金利を0.25%幅で引き下げ可能性が出てくると見えています。

タイの政策金利は今年だけで3回の利下げを実施したことで、現在は過去に例のない年0.5%の水準まで下がっています。しかし、タイの景気回復に対する下振れリスクを示す兆候がある場合に備えて、政策金利をもう一段引き下げるのに十分なポリシースペースがあると見えています。

図5: 2019年～2021年タイ国経済指標

経済指標 (%YoY)	2019	2020F		2021F	
		2020年8月の予測	2020年12月の予測	通常 ケース	予測幅
GDP 成長率	2.4	-10.0	-6.7	2.6	0.0-4.5
- 民間消費	4.5	-3.3	-1.1	1.8	0.8-2.3
- 政府消費	1.4	2.3	2.6	4.0	3.0-5.0
- 民間投資	2.8	-12.1	-10.2	2.5	1.4 - 3.0
- 公共投資	0.2	6.0	10.0	6.1	5.1 - 8.4
- 輸出	-2.7	-12.0	-7.0	3.0	1.5 - 4.5
- 輸入	-4.7	-16.8	-14.0	3.6	2.0-5.5
ヘッドライン・インフレ率	0.7	-1.2	-0.9	0.8	0.5-1.0

出所: NESDB, MOC, カシコンリサーチセンターの予測 (2020年12月)

Disclaimer

This research paper is arranged for public information, which has been obtained from sources believed to be reliable. KResearch does not warrant its completeness, reliability or accuracy for commerce or fitness for a particular purpose. The information contained herein may be subject to change at any time without notice. Reliance upon any information contained herein shall be undertaken at a user's own risk KResearch shall not be liable to any user, or anyone else for any damage occurring from the use of any content herein. Nothing in this research paper shall be counted as containing any advice, recommendation or opinion for decision making in business.